



SAB適格セクターを医療と教育に拡大



EIBの気候関連活動に関する意欲的な新目標



EUタクソノミー及びEUグリーンボンド基準の公表



CAB枠組み2018の公表



2019年1-6月における
CAB・SABの配分



42 のプロジェクト



20 か国



17億ユーロの配分



15 のプロジェクト



12 か国



2億5,500万
ユーロの配分

債権発行ハイライト

2019年の気候変動および持続可能性への認知度を高めるための債券の発行

種類	ISIN	発行日	満期日	利率	通貨	発行額 (各通貨・百万)	ユーロ相当額 (百万)
CAB	XS1980857319	2019/04/04	2042/11/14	1.00%	ユーロ	500	500
CAB	XS1998795535	2019/05/13	2029/11/15	2.88%	ポーランド・ズロチ	1,000	232
CAB	AU3CB0263945	2019/05/28	2024/11/15	1.70%	豪ドル	400	248
CAB	XS2022314467	2019/06/27	2031/11/14	0%	デンマーク・クローネ	3,000	402
CAB	AU3CB0245884	2019/07/25	2028/02/03	3.30%	豪ドル	150	94
CAB	XS2036242803	2019/07/30	2024/11/15	0.75%	英ポンド	800	874
SAB	XS1878833695	2018/09/05	2026/05/15	0.375%	ユーロ	250	250
SAB	XS2052474678	2019/09/09	2026/09/21	0.125%	スウェーデン・クローナ	2,000	187
CAB	US298785JA59	2019/10/02	2029/10/09	1.625%	米ドル	1,000	913
						合計	3,700

2019年10月15日現在

CAB発行

2019年、欧州投資銀行（以下、EIB又は当行）は、気候変動への認知度を高めるための債券（以下、CAB）の発行を6種類の通貨に拡大して発行総額を33億ユーロとし、ポーランド・ズロチとデンマーク・クローネの2通貨では初の発行となりました。今年の発行活動では、来るべきEUサステナビリティ・タクソミー（以下、EUST）に合致させたCAB調達資金使途文書を新たに作成した点が強調されます。

まず、EIBは4月、2042年償還のCABを5億ユーロ発行しました。これは、EUSTと関連した調達資金使途文書を新たに作成した初のCABでした。

次に、EIBは5月、2029年償還のCAB債を10億ポーランド・ズロチ発行しました。これは、ポーランド・ズロチ建てで初のCABであり、日本郵政グループの保険部門である株式会社かんぽ生命保険に全額販売されました。また、本発行は、ユーロ以外の通貨建てで新たなCAB調達資金使途文書を作成した初の発行でした。本発行は、EUの「持続可能な成長への資金供給に関するアクションプラン」に対する日本の関心の高まりだけでなく、サステナビリティ関連の資金調達に対する日本における支援の拡大を明らかにしました。

当行は、オーストラリア市場での発行を2回、2024年償還のCAB4億豪ドルの新規発行と、既存の2028年償還の豪ドル建てCABにつき1億5,000万豪ドルの追加発行（合計残高は14億豪ドル）を行いました。これらの発行は、オーストラリアと日本の需要に促されたもので、サステナビリティ・タクソミーに対する共同のアプローチを世界的に発展させることにEIBが果たしている貢献について世界の投資家達がしだいに理解を深め、評価しつつあることを明らかにしました。

加えて、当行は、デンマーク・クローネ建てで初のSSAグリーンボンドとなる初のCABを発行しました。この2031年償還のCAB30億デンマーク・クローネ建ての債券は、現在EUが制定しようとしている持続可能な金融に関する法令にサステナビリティ関連の資金調達を合致させようとするEIBの取組みを支援する北欧の持続可能な長期投資家にとって魅力的であることが明らかになりました。

当行は7月、8億英ポンドに上る過去最大の英ポンド建てSSAグリーン債を2024年償還で発行しました。これは、EUSTに関連付けた調達資金使途文書を伴う初の英ポンド建て債券発行です。分配の約3分の2は、グリーン投資家（専用のグリーン口座・ポートフォリオ・信任を有する投資家、及び／又は国連責任投資原則の署名機関である投資家、をいいます）に販売されました。

最後に、ニューヨークの「気候変動週間」に続き、EIBは、米証券取引委員会（SEC）登録の2029年償還CABを10億米ドル発行しました。この発行は、募集枠の4倍の応募がありました。また、EUSTに合致した調達資金使途文書を伴う初の米ドル建てグリーンボンドとなります。

SAB発行

2018年9月、当行は、持続可能性への認知度を高めるための債券（以下、SAB）を初めて発行し、その収益は、（気候変動にとどまらず）環境的・社会的持続可能性目標に実質的に貢献する活動に対する融資に割り当てられました。SABの枠組みは柔軟で、EUの法令に沿い、また国連の持続可能な開発目標（以下、SDGs）を支持する活動や目的にも適格性を順次拡大することを認めています。2019年9月、SABのポートフォリオ残高が分配額の上限に近づいたため、当行は、初の発行だった2026年償還のSABにつき2億5,000万ユーロを追加発行しました。その後すぐに、EIBは、2件目のSABとして、2026年償還のSAB20億スウェーデン・クローナを発行し、スウェーデン、ノルウェー、日本の投資家に販売しました。



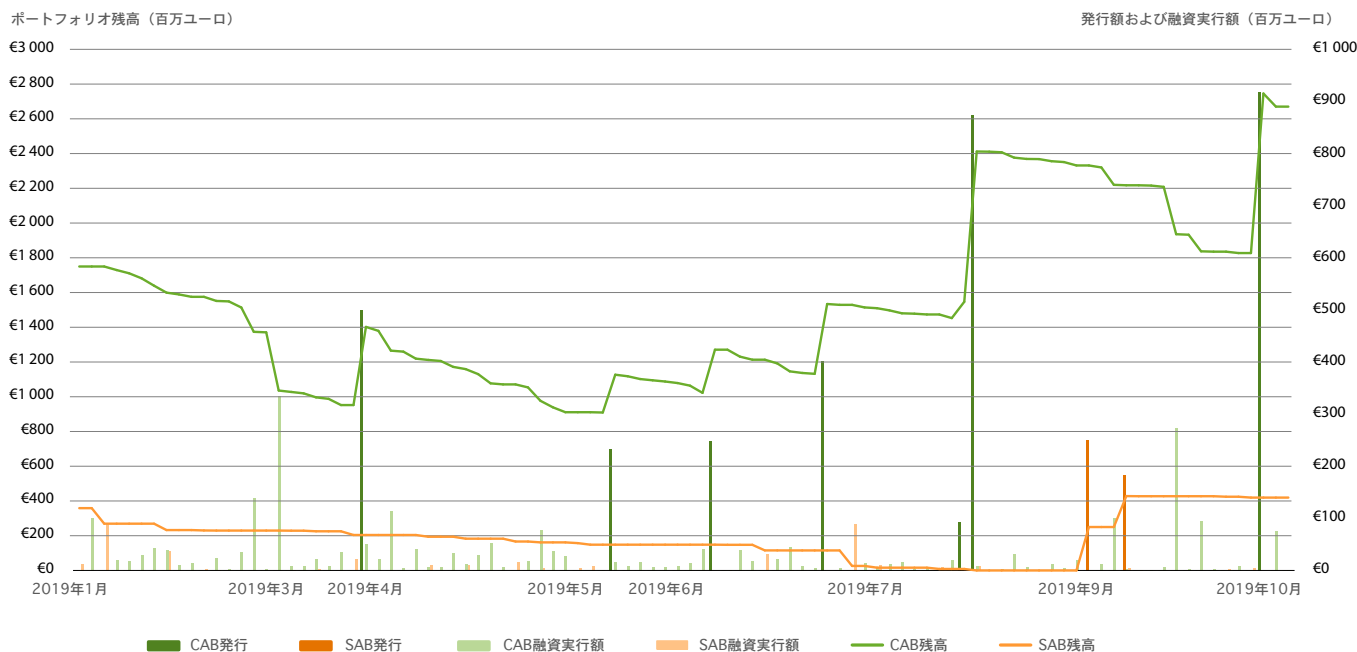
これらの発行は、持続可能性の拡大領域において、提供可能な医療サービスへの普遍的アクセス (SDG目標3)、及び公平で包摂的な教育へのアクセス (SDG目標4) という社会的目標に適合する活動に対し、融資適格基準が拡大されることを示しました。

その結果、現在までに当行は、SABの発行により6つの目標に取り組んだことになります。6つの目標の内訳は、環境的目標が2つ、社会的目標が4つです。環境的目標は、(1) 天然資源の保護、(2) 環境汚染防止及び管理です。社会的目標は、(3) 水と衛生へのアクセス、(4) 自然災害リスク管理、(5) 提供可能な医療サービスへの普遍的アクセス、(6) 公平で包摂的な教育へのアクセスです。SAB調達資金使途文書の表現が柔軟なため、SAB銘柄内における異なる追加発行間の代替可能性が保たれており、債券の流動性は強化されています。

EIB資本市場部門責任者のエイラ・クレイヴィ (Eila Kreivi) 取締役のコメント：「2019年の気候変動への認知度を高めるための債券の発行では、制定されつつあるEUサステナビリティ・タクソノミーに適合するCAB調達資金使途文書が新たに作成された点が強調されます。CABの世界的な認知は、複数の通貨建てで好意的な反応が得られたことで確定的となりました。」

気候変動にとどまらず、持続可能な発展のためには、資本市場から支援を受け、またサステナビリティ関連の金融に関する共通言語の形成に助けられて、資金の流れを持続可能な投資へ早急に振り向ける必要があります。2019年の持続可能性への認知度を高めるための債券の発行は、SAB適格性が医療及び教育活動に拡大されたことを示しています。」

CAB及びSABポートフォリオ残高



*2019年10月15日現在の未監査データ

2019年1月1日時点において、CABポートフォリオに計上された未配分の調達資金残高は18億ユーロでした。24億ユーロの融資実行と33億ユーロの新規発行による純調達があり、2019年10月15日時点のポートフォリオ残高は約27億ユーロとなっています。

2019年初、SABの未配分の調達資金残高は、3億7,100万ユーロでした。3億8,600万ユーロの融資実行と4億3,400万ユーロの新規発行による純調達があり、2019年10月15日時点のポートフォリオ残高は4億1,900万ユーロとなっています。SABによる調達資金はCABによる調達資金とは分別管理されますが、同様の手法が適用されます。つまり、CABおよびSABによる調達資金は、資金調達勘定内において運用マネーマーケット・ポートフォリオのサブポートフォリオに配分されます。これは、グリーンボンド原則 (GBP)、ソーシャルボンド原則 (SBP)、サステナビリティボンド・ガイドライン (SBG) に則したものとされています。

調達資金の使途

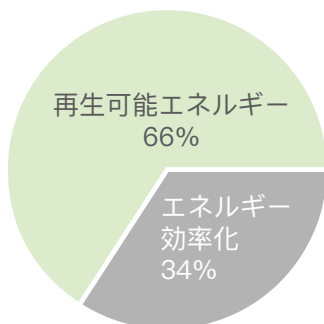
EIBでは適格融資に対する調達資金の配分において、先入先出法の原則を適用しています。

2019年1-6月の間に、CABによる調達資金のうち総額17億ユーロが20カ国、42のプロジェクトに配分されました。15億ユーロはEU加盟国の35のプロジェクトに融資され、1億4,600万ユーロはEU域外諸国の7プロジェクトを支援しました。このうち、11億ユーロは再生可能エネルギー関連プロジェクトの資金調達に寄与し、残額はエネルギー効率化関連の融資に向けられました。

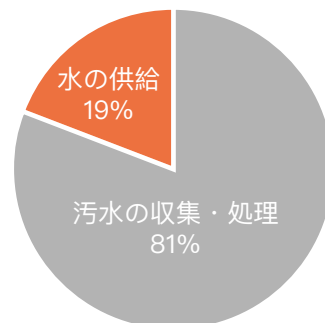
2019年1-6月の間に、SABによる調達資金は、12カ国、15のプロジェクトに配分されました。同期間中に、1億8,200万ユーロはEU加盟国の7プロジェクトに融資され、7,300万ユーロはEU域外諸国の8プロジェクトを支援しました。

配分の詳細な報告はEIBのウェブサイトから入手できます（8ページの「資料」をご覧ください）。

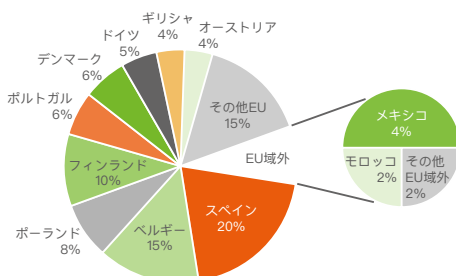
CAB活動別分配比率



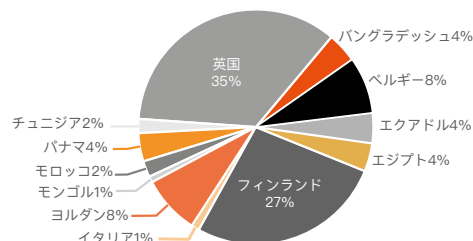
SAB活動別分配比率



CAB国別分配比率



SAB国別分配比率



*未監査のデータ

SABプロジェクト：マラウイ・リロングウェ水資源効率化

EIBは2015年、マラウイの首都リロングウェでリロングウェ水道委員会が実施する4,920万ユーロの投資プロジェクトを支援するため、2,400万ユーロの融資を認可しました。2019年初来で、SABによる調達資金のうち1,000万ユーロが同プロジェクトに割り当てられました。同プロジェクトの主要な内容は、リロングウェの主たる水源であるダムを改良すること、水処理場を拡張すること、漏水を減少させること、及びネットワーク管理を改善することです。

同プロジェクトの推進者は、マラウイに5つある水道委員会の1つであるリロングウェ水道委員会です。既存のインフラとして2つのダム（第1カムズ・ダム及び第2カムズ・ダム）、2つの主要水処理場及び約1,800キロメートルのパイプネットワークがあり、プロジェクト推進者は、現在1日当たり約6万2,000立方メートルの水を4万850の住居に供給しています。しかし、現在1日当たり約10万立方メートルの需要がありこれを満たすことができないため、2012年以降、水は配給制になっています。過去10年間に、干ばつが頻繁にかつ連続的に発生し、ダムシステムは限界に達していました。

プロジェクトの主要な内容は、第1カムズ・ダムを改良し、年間貯蔵容量を約1,900万立方メートルに増やし、リロングウェ水供給システムの干ばつに対する強靱性（レジリエンス）を大幅に強化することです。同プロジェクトは、水漏れ（つまり収入を伴わない水）を35%から25%に減らし、ネットワーク管理を向上させる取り組みも含んでいます。全体として、同プロジェクトは、推定140万人の住民が恩恵を受けることになる安全で途切れることのない水の供給の開発に貢献します。

結果として、同プロジェクトは、2つのSAB目標（環境的目標として天然資源の保存、社会的目標として水及び衛生へのアクセス）に大きく貢献し、関連するSDGs（持続可能な開発目標）を支援しています。



EIBは、国連で意欲的な気候関連活動目標を提示しました



EIBは、9月の国連気候行動サミットで、当行の新たな気候関連活動目標を発表しました。これは、欧州委員会が当行に対し、提案された欧州グリーン・ディール、及び気候関連活動に関する欧州連合のより意欲的な役割において、当行が重要な柱となるよう要請したことを受けたものです。EIBはこの構想、及びEIBをEUの気候銀行として強化することに関するフランスその他の加盟国の支持を歓迎しました。EIBグループが気候関連活動及び環境的持続可能性に関して提案した意欲的な2030年目標は、3つのコミットメントを中心としています。



1. 2020年末までに、EIBグループのすべての財務活動をパリ合意の目標に沿うようにすること
2. 2025年までに、EIBの資金の少なくとも50%を気候関連活動及び環境的持続可能性のために提供すること
3. 気候変動への適応や気候変動に対する強靱化に対して支援を強化することにより、2030年までの10年間で、1兆ユーロ規模の気候関連活動に係わる投資や環境的に持続可能な投資を引き出し、支援すること

さらに、EIBは、国連事務総長主導で開催された気候行動サミットの期間中に、他の国際的開発銀行8行（以下、MDBs）*とともに声明を発表し、気候関連活動に対する世界的投資規模を年間650億米ドルにすると約束しました。この金額には、低・中所得国に対する投資500億米ドルが含まれており、これは現在の水準の50%増になります。集团的取組みにより、顧客に提供される適応関連の資金総額は、2025年までに現在の水準の2倍に当たる年間180億米ドルとなる見込です。この取組みは、顧客プロジェクトにおける気候変動に対する強靱化、及びシステム全体での強靱性向上に対して支援を増強すべき差し迫った必要性に対応するものです。

さらに、MDBsは、現状の流れのままいけば、集团的取組みにより、2025年までに技術支援の提供の増加、保証の活用、その他リスクを抑えた手段の利用などにより、民間セクターの投資家からさらに年間400億米ドルの気候関連の投資を呼び込むことができると期待しています。

MDBsは、地球上の気温上昇を2度より大幅に低く抑えるというパリ合意の目標を達成するため、10年以上にわたり気候関連活動をリードしてきました。MDBsによる共同での取組みは、2018年に発展途上国や新興国における1,110億米ドルという過去最高水準の気候関連融資・協調融資を行ったことで既に実証済みですが、今回の声明で改めて確認されました。

* アジア開発銀行、アフリカ開発銀行、アジアインフラ投資銀行、欧州復興開発銀行、欧州投資銀行、米州開発銀行グループ、イスラム開発銀行、新開発銀行、世界銀行グループ

	<h2>グローバルキャピタル・アワード</h2> <p>グローバルキャピタル誌は9月17日、EIBに対し、「最も印象に残った国際機関グリーン/SRI債発行体」賞を授与しました。さらに、EIBの持続可能性に関する資金調達部門ヘッドであるアルド・ロマーニ（Aldo Romani）は、「最も印象に残ったグリーン/SRI債券資金調達担当者」賞を受賞しました。これらの表彰は、グローバルキャピタル誌がアムステルダムで開催した「持続可能な責任ある資本市場」会議で行われました。受賞者は、2018年7月から2019年6月までの持続可能な金融活動を対象とする市場参加者による投票で選ばれました。</p>	
--	--	---

市場動向

TEGによるEUサステナビリティ・タクソノミー及びグリーンボンド基準に関する提言の公表

6月18日、欧州委員会の持続可能な金融に関する技術専門家グループ（以下、TEG）は、委員会の「持続可能な成長への金融に関するアクションプラン」にとって重要な前進となる3つの報告書を新たに公表しました。EIBはTEGの一員として、特に、EUタクソノミーに関する報告書及びEUグリーンボンド基準に関する報告書の作成に貢献しました。これら2つの報告書は、EIBの資金調達及び融資活動に直接関連するものです。



環境的に持続可能な活動に係るEUタクソノミーに関する報告書は、6つの環境的目標の内、最初の2つ、すなわち気候変動の緩和と気候変動への適応という目標に実質的に貢献する経済的活動を識別するための方法論、指針、技術的スクリーニング基準について概説しています。

EUグリーンボンド基準に関する報告書は、プロジェクトの適格性（EUタクソノミーとの明確な関連）及び発行体報告書の検証に関して、グリーンボンド市場の透明性と信頼性を高めることを目指すEUグリーンボンド基準について提言しています。

TEGは2018年7月に作業を開始しました。TEGは、市民組織、学界、実業界、金融界出身の35名で構成されています。これらの報告書は、欧州委員会の「持続可能な成長への金融に関するアクションプラン」の主要な側面に関し、1年かけて行われた広範囲な作業の成果です。同報告書は、2018年5月にECが提示した法的提言を補完するものです。同報告書は特に、投資家に対し、何に投資しているのかをより意識させ、持続可能な投資を行うための重要な手段を提供することで、民間部門の投資が持続可能な開発に向かうようさらに動機付けをし、導くことを目指しています。

TEGの作業プログラムは2019年末まで延長されました。TEGは、報告書について求められている一般の意見を基に、2019年末までに欧州委員会に対し最終的な提言を行う予定です。この作業は、EIBと欧州投資基金（EIF）も参加を要請されている恒久的プラットフォーム、「持続可能な金融に関するEUプラットフォーム」に引き継がれる予定です。

世界レベルでは、この作業は、「持続可能な金融に関する国際プラットフォーム」により補完されています。同プラットフォームは、この議論をEU域外にも広め、国や地域をまたいだ透明性及び比較性を達成すること、並びに同一の適格性基準を課されない状況下で、グリーン金融手法に関する優良事例を交換することを目指しています。EIBは6月、同プラットフォームへの参加を要請されました（そして受諾しました）。

EIB－GPIF：持続可能な金融に関するG20の枠組みの中でより透明性をもたらしめるための協力

6月28日、EIBと日本の年金積立金管理運用独立行政法人（以下、GPIF）は、持続可能な金融を推進する取組みがしだいにグローバル化するなか、資本市場での協力関係強化を目指して提携関係を結びました。GPIFのアセット・マネジャーらは、環境、社会、統治（以下、ESG）への配慮を債券投資に統合するというより広範な取組みの一環として、CAB及びSABへの投資をとらえています。EIBとGPIFの協力関係は、今年大阪で開催されたG20サミットの初日に始まりました。G20サミットは2016年9月、持続可能性及び持続可能な金融における透明性向上を測定する国際的に比較可能な指標について共同でアプローチする必要性を説いていました。

EIBは、債券の調達資金使途文書をEUSTIに明確に関連付けることで透明性を向上させれば、これらの債券から配分を受けるプロジェクトの持続可能性が明らかになり、CAB及びSABの有効性が高まる、と確信しています。これは、GPIFが自己の投資判断のために設定したESGの枠組みに照らして、歓迎すべき投資機会です。

EIBとアムンディ：グリーン・クレジット・コンティニウムにおける提携

EIBは2019年7月、アムンディ・アセット・マネジメントと提携し、グリーン・クレジット・コンティニウム (Green Credit Continuum) 投資プログラムを開始すると発表しました。このプログラムは、欧州のグリーン債市場に10億ユーロを投じることで、この市場が既存のグリーンボンドを超えて小規模なグリーン・プロジェクトや中小・中堅企業の資金調達を支援するため発展するよう育成し、またEUのパリ合意でのコミットメントに対して金融面から手助けすることを目指しています。EIBは、このファンドに最大で6,000万ユーロを投資する予定です。

このプログラムは、3つの構成要素から成り立っています。まず、グリーン・ハイ・イールド社債、グリーン私募債、及びグリーン証券化債務に投資する分散投資ファンドを創設します。並行して、これら3つの市場の環境関連指針を、国際的な最良事例に沿って、また欧州委員会の持続可能な成長への金融に関するアクションプランに基づき定められる法令と合致するように制定し推進するため、グリーン金融専門家による科学委員会が設置されます。最後に、債券発行とプロジェクトが明らかになるように、グリーン債券発行ネットワークを立ち上げます。

本合意の目標は、このモデルを基にファンドをいくつか設定し、これら新たなグリーン関連金融の分野に関する市場標準の確立を支援することにあります。したがって、この構想は、グリーン関連資金調達が政府、政府機関や大企業だけでなく多様化するための新たな市場手段の創設に貢献します。



アムンディのイブ・ペリエ (Yves Perrier) CEOとEIBのバイスプレジデント、アンブルワーズ・フェイオール (Ambroise Fayolle)

ウィーフォレスト (WeForest) と共同で2万本を植樹

2017年、当行初の気候変動への認知度を高めるための債券発行10周年を記念して、EIBはウィーフォレストと共同で、カシー山地 (インド) とアムハラ (エチオピア) で2万本の植樹をすると約束しました。植樹が行われ、木々が成長しつつあることを報告できてうれしく思います。

北カシー山地リ・ボイ地区 (インド) で植樹地域の監査を数回受けた結果、苗木生存率は高く、木々は素晴らしい状態であると確認されました。地元の保育園らが地域原産の19種類もの樹木を育てており、将来的には、地元産のツウルシー (宗教目的及び伝統的な医療目的で一般に栽培されている神聖な植物) などのハーブもそこで育てることができ、地域コミュニティの収入機会をさらに増やすことができます。

アムハラ (エチオピア) では、大規模植樹により、農家を2017年アグロフォレストリー・プログラムに登録することができました。地元で農業を営むイェルソー (Yersaw) 氏は、アカシア・デカレンスとコルディア・アフリカーナを植樹しました。あと2年経てば、これらの樹木はその根元で野菜の栽培ができるくらいに日陰をもたらすでしょう。さらに、イェルソー氏は、間伐で生じる枝や幹を木質チップやペレットとして利用でき、3年後には、必要な燃料を自分の土地から得ることができ、余った枝を売って追加の収入を得ることも可能になると見込まれます。



2019年6月12日、CAB枠組み2018を公表

この資料はEIBの気候変動への認知度を高めるための債券に関連した手順、責任、過程について説明するものです。同資料は2018年のCAB活動についての報告も行っています。EIBの独立監査機関であるKPMGルクセンブルグがCAB報告書に対する合理的な保証レポートを提供しており、同報告書が適切に作成され、CAB基準がグリーンボンド原則（GBP）に沿ったものであることを言及しています。KPMGはグリーンボンド原則外部レビューフォーム（CAB報告書の53ページをご覧ください）も記載しており、同フォームはGBPリソースセンターにアップロードされています。CAB「枠組み」の名称は、2019年6月公表のEUグリーンボンド基準に関する報告書と合致しており、以前に公表された一連のCAB「報告」を継承するものです。

主なポイント

金融面

- ✓ **規模:** 現在までで国際機関最大のグリーンボンド発行体です。（2019年9月現在、267億ユーロ）
- ✓ **流動性:** ユーロ建てで最大の国際機関によるグリーンボンド（30億ユーロ）であり、米ドル建て（15億米ドル）、ポンド建て（18億英ポンド）でも流動性を提供しています。
- ✓ **ユーロ建てECoopグリーンボンドのイールドカーブ:** 残存期間1年、4年、7年、13年、18年、23年、28年と7か所の参照ポイントがあります。
- ✓ **プロジェクトごとではなくEIBに対する信用リスク:** CABは他のEIB債と同格に扱われます。

透明性と説明責任

- ✓ **グリーンボンド原則に準拠:** EIBはKPMGのレビューによる確認を受けた整合性に関する明確なレポートを行っています。
- ✓ **適格性:** プロジェクトは気候変動の緩和に大きく貢献しています。
- ✓ **クオリティ:** 専門家が、厳しいEU基準に沿うプロジェクトのデューデリジェンスを実施します。
- ✓ **透明性:** 調達資金の使途および環境へのインパクトを詳しく報告します。
- ✓ **外部機関によるレビュー:** KPMGによる独立性を担保した合理的な保証レポート。

金融面

- ✓ EIBは2018年9月に初のSABを発行しました。
- ✓ **規模:** これまでに9億3,700万ユーロを発行、SABプログラムの発展に対する長期的な取り組み。
- ✓ **流動性:** 複数の目標やセクターを徐々に含めていくことでSABプログラムの拡大が想定されており、将来的にはベンチマーク規模の取引が可能。
- ✓ **プロジェクトごとではなくEIBに対する信用リスク:** SABは他のEIB債と同格に扱われます。

透明性と説明責任

- ✓ **準拠原則等は、グリーンボンド原則（GBP）、ソーシャルボンド原則（SBP）、サステナビリティボンド・ガイドライン（SBG）です。**
- ✓ **適格性:** プロジェクトは、気候変動を超えた環境的、社会的持続可能性目標に大きく貢献しています。
- ✓ **クオリティ:** 専門家が、厳しいEU基準に沿うプロジェクトのデューデリジェンスを実施します。
- ✓ **透明性:** 調達資金の使途および環境的、社会的インパクトを詳しく報告します。
- ✓ **外部機関によるレビュー:** SABの活動は独立外部監査人による監査を受けます。

資料

気候変動への認知度を高めるための債券残高: http://www.eib.org/en/investor_relations/products/type/cab/index.htm

持続可能性への認知度を高めるための債券残高: http://www.eib.org/en/investor_relations/products/type/sab/index.htm

CAB及びSABの配分報告:

https://www.eib.org/en/investor_relations/documents/eib-sab-projects.htm

https://www.eib.org/en/investor_relations/documents/eib-cab-projects.htm

CAB枠組み2018: https://www.eib.org/attachments/fi/eib-cab-framework-31-12-2018-signed_secured.pdf

CAB及びSABに関するプレスリリース: https://www.eib.org/en/investor_relations/press/index.htm

TEG報告書: https://ec.europa.eu/info/publications/sustainable-finance-technical-expert-group_en

MDBsの気候関連活動に関する声明: <https://www.eib.org/attachments/press/joint-mdb-statement-climate-change-finance-un-climate-summit-2019-en.pdf>

MDBsの気候関連金融に関する2018報告: <https://www.eib.org/attachments/2018-joint-report-on-multilateral-development-banks-climate-finance.pdf>

EIB-GPIF: <https://www.eib.org/en/press/news/eib-engages-for-more-clarity-within-g20-framework-on-sustainable-finance-in-cooperation-with-gpif>

マラウイ・リロングウェ水関連投資プログラム: <https://www.eib.org/en/press/all/2015-132-eur-50-million-lilongwe-water-investment-programme-gets-european-backing>

免責事項

本資料は情報提供だけを目的としています。また、本資料は証券購入の申出または勧誘でもなく、本資料において示される情報は、何らかの契約上またはその他のいかなる種類の義務の根拠ともならないものとします。EIBにより発行された証券は、米国証券法において登録されていない限り、米国において、または米国外にいる米国人に対して、提供または売却することができません。その他の国でも同様の制約を受けることがあります。本資料には、予想、見積り、予測および仮定に基づいた将来の見通しに関する記述が含まれています。こうした記述は将来のパフォーマンスを保証するものではなく、予想が困難な一定のリスクや不透明性を含んでいます。実際の将来の結果やトレンドはこうした見通しに関する記述で予想された内容と大幅に異なることがあります。本資料は、公表日現在に限定されたものであり、EIBには公表日以降に発生した事象、状況または予想の変更を反映させるよう本資料を更新する義務はありません。

European Investment Bank

Investor Relations
98-100, boulevard Konrad Adenauer
L-2950 Luxembourg
✉ investor.relations@eib.org
☎ (+352) 43 79 - 53000

http://www.eib.org/investor_relations/cab/index.htm